

# 第8回地域包括ケア応援セミナーアンケート集計結果

テーマ:「認知症を知ろう!」～認知症になっても自分らしく暮らし続けるために～

日程:平成29年11月10日(金) 13時30分～16時30分

会場:さいたま新都心合同庁舎1号館 講堂

## 1. アンケートの回答数内訳

① 都県	② 市区町村	③ 医師会	④ 歯科医師会	⑤ 薬剤師会	⑥ 看護協会	⑦ 医療機関	⑧ 薬局	⑨ 地域包括支援センター	⑩ 大学	⑪ 社会福祉法人	⑫ 民間企業	⑬ 団体	⑭ その他	⑮ 回答なし	合計
3	32	2	0	0	0	10	2	8	6	20	18	22	6	2	131

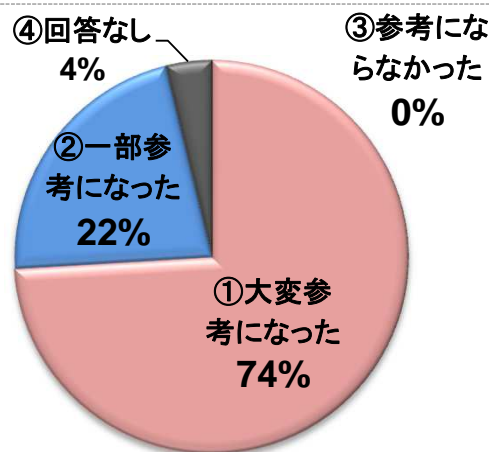
## 2. 本日のセミナーをどのようにお知りになりましたか。

① 都県からの連絡	② 市区町村からの連絡	③ 厚生局からの案内	④ 厚生局のHP	⑤ 経済産業局からの案内	⑥ 経済産業局のHP	⑦ ハローワーク設置のリーフレット	⑧ 駅設置のリーフレット	⑨ その他	⑩ 回答なし	合計
13	22	56	4	0	1	0	0	26	9	131

## 3. 本日のセミナーは全体として参考になりましたか。

① 大変参考になった	② 一部参考になった	③ 参考にならなかった	④ 回答なし	合計
97	29	0	5	131

※自由記述(1) 101本



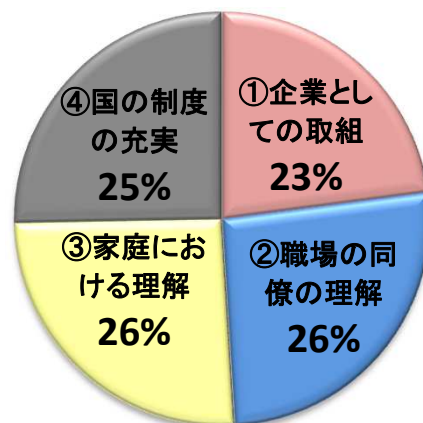
## 4. あなたやあなたの家族が認知症になっても住み慣れた地域で暮らしていくにはどのようなことが必要と考えますか。(自由記述のみ)

※自由記述(2) 96本

## 5. 若年性認知症支援で重要なことは何だと思えますか。(複数回答可)

① 企業としての取組	② 職場の同僚の理解	③ 家庭における理解	④ 国の制度の充実	合計
58	66	65	64	253

※自由記述(3) 60本



厚生局・自治体に関すること58本、ご意見・ご要望 21本

(1) 本日のセミナーは全体として参考になりましたか。  
 →「①大変参考になった」「②一部参考になった」と答えた方は、どのプログラムの  
 こういった点が参考になりましたか。

1	岩佐さんの頑張っている日々のお話。とても説得力があり響きました。
2	岩佐氏の講演。情報が入りにくい若年性認知症の人の話を聞くことができたため。
3	講演。岩佐さんの具体的で現実の経過、そして対応、介護者としての気持ちの変容、どのように地域で支援していけば良いか、難しさを感じます。
4	若年性認知症の方を支える家族の生の声は、本当に心に響きました。行政の立場にある者として、家族の支援、一層の普及啓発に力を入れていきたいと思えます。
5	岩佐さんの講話が大変良かった。各団体からの情報も参考になった。
6	家族の話を知ることができて良かった。認知症の知識の普及のため、医師の講演会などを実施してきましたが、家族の方の声なども、取り入れていけば、認知症の普及がより進むのではと思いました。
7	講演における、介護に携わる方の実情を伺えること。
8	岩佐さんの話は具体的でよかった。
9	若年性アルツハイマーの母親との介護生活の現状。制度を知る。本人に寄り添うことが大切であるということ。
10	岩佐さんのお母様の介護体験を通してのお話が実感がこもっていて本当に大変だったんだとか、苦労された点、参考になりました。
11	岩佐さんのお話とても感銘を受けました。私が岩佐さんと同じ立場になったらその状況を受け止めることができるだろうか。つぶれてしまうのではないだろうか。等々様々なことを考えました。そして今の私ができることは行政の立場で制度の説明や支援につながる包括ケアシステムの確立を着実に前進させることと感じました。
12	岩佐さん：よく頑張って介護をされている。人を思いやる家族を大切にしている様子が分かった。制度について考える情報を得る機会となった 小長谷さん：若年性の実状を数字で理解ができた。
13	岩佐さんの具体的な例が分かりやすく心にひびきました。色々な制度についての説明が参考になりました。調べてみたいと思えます。
14	講演、本人の思いを大切にすることや家族の思い等を改めて考える機会になった。また行政の相談窓口（ワンストップ）の見直しの必要性を感じた。 若年性認知症の現状を知る機会になった。 パネルディスカッション、他県の取組や若年性認知症の就労支援等に関して情報を得ることが出来た。
15	岩佐さんの話がとても印象深かった。
16	岩佐さんの話を聞き、明るい対応の重要性を改めて知った。
17	岩佐氏の講演。自分の個人的体験に絡め、社会全体の状況、公的利用についての紹介もあり大変具体的で参考になった。
18	岩佐氏の講演は分かりやすく大変参考になりました。区で講演を聞くと、年齢層が高い人が参加し、なかなか若い世代に感心を持ってもらうことが難しいです。岩佐氏の経験にもとづいた話は、若い世代にも「他人事ではない」と気づききっかけになるのではないかと感じました。
19	岩佐さんの話がとても分かりやすかった。家族の気持ちとしてサポーター養成なので、参考にさせてもらいたい。

(1) 本日のセミナーは全体として参考になりましたか。  
→「①大変参考になった」「②一部参考になった」と答えた方は、どのプログラムの  
こういった点が参考になりましたか。

20	神山さんのお話。鈴木さんの資料。岩佐さんの講演。 ケアマネージャーが制度を知らない、医者も知らないと話すことで、専門職の刺激となった。
21	岩佐さんは「楽しく介護を働きながらできる人」という位置づけだったが、その境地に至るまでにとっても大変であるだけでなく、家で介護をするんだという信念を感じました。
22	岩佐まりさんの体験実話。認知症の人を理解しようとし、そしてお世話することに生きがいを感じていることと、母と子の深い愛情。マイナス面だけをとらえて、つらくなってしまうのではなく、「幸せ」を感じている方の話が聞けて良かったのとこんなに愛情を持って、取り組んでいる人がいらっしやるのだという事を知った事。
23	岩佐さんの講演。介護の実態が伝わりました。
24	岩佐まり様の講演。患者の症状等、介護の現実が参考になりました。
25	若年性アルツハイマーの講演会
26	岩佐さんのお母さんの介護経験を通してみてきた認知症の行動について心の持ち方がプラスに考える姿勢でステキだと思った。でもここまでの気持ち、対応ができるまでは大変だったと感じた。
27	実際に介護されている人から話を聞くことができた。
28	岩佐さんの家族としてのお話がきけて良かったです。
29	岩佐まりさんのお話は、実際の体験談であったため、介護者の生の声を聞くことができ、専門用語については、気を付けるべきであると改めて感じた。
30	講演の生の声（介護者として働きながらの介護）が参考になった。他の自治体の取組が聞くことができ参考にして、取り入れられるところは役立てていきたい。
31	岩佐まりさんの生のお声を聞くことによって、改めて自分が何について考えどのように支援させて頂いたら良いかということを考えさせられました。
32	講演を聞きながら、介護する側、される側にも感情があり、これまでの生活歴を大事にする事の大切さを学ぶことができた。
33	岩佐さんの実際の体験や使えるサービスなどが参考になりました。
34	岩佐まりさんのお話を聞いて、日頃より感じている、問題点を具体的に伺い、改善出来る点、案内や立場に立つことを再認識した。制度については、日頃より勉強していることが大切であると思った。
35	長時間認知症の方と関わったことがないので、ご自身のお母様の現実的なお話を聞いて参考になりました。
36	講演：実際に介護をされているご家族の声を聞くことができ大変有意義でした。ケアマネとして制度をもっと知り、理解していかなければと痛感しました。横浜市で仕事をしていますが、若年性認知症の方の相談窓口があるかどうか調べてみたいと思いました。
37	実際のお話が聞けて大変参考になりました、
38	改めて、認知症の方の対応や、過ごしやすいケアサービスについて、考える機会となりましたし、家族の方の困難な状況が理解できました。制度や取組を変えることは容易ではありませんが、介護の現場にいるものとして、伺う話としては興味深い内容でした。
39	岩佐まりさんの実体験を聞くことが出来て良かったです。また、群馬県の取組は素晴らしいと思いました。

(1) 本日のセミナーは全体として参考になりましたか。  
 →「①大変参考になった」「②一部参考になった」と答えた方は、どのプログラムの  
 こういった点が参考になりましたか。

40	岩佐さんのお話が、若年性認知症について理解するきっかけとして大変良かった。制度として整備されているもののそれを利用するには情報にアクセスする事すら大変であるため、事前理解が必要だと感じた。
41	岩佐まり様の講演で出来る限り在宅介護を続けたいという気持ちを持っている生の声が聞けた事を施設運営の中で参考になった。
42	岩佐まりさんの実体験 写真付で想像イメージをしやすい話し方だった。家族の思いや、悩みも切実に伝わってきた。
43	認知症、特に若年性認知症に関する知識が深まり、薬剤師として取組むべきことを考えることができたため。岩佐さんのご講演にも感銘を受けました。
44	岩佐さんのお話は本当に介護を実践した方でないと出てこないお話ばかりで私も実際困った事とかぶるお話が多くて共感できましたし、この問題点を厚生局の方々にも対応して欲しいと思いました。
45	岩佐まりさんの講演
46	講演。岩佐まりさんの「母と生きる」がまさに生活ライフサポートそのものであった。障害年金の早期受給で経済的安心と障害1級（重い）の取得への支援への取組。 障害者雇用枠や法定雇用数の明確化、移動支援の内容の拡大。家族会活動への公的（人物）支援。 早期診断と治療薬開発（アミロイドPETによる診断とアミロイドワクチンによる治療による早期実施（効果はまだまだのよう））
47	認知症の症状など事例を交えてリアルなものがあり、多々似たケースがあることを再認識できた。
48	岩佐まりさんのご自分の体験から具体例を交えたお話が大変参考になりました。（実感として理解できた）
49	岩佐さんの実体験と最後の利用できる社会資源。このような情報を積極的に発信してもらえると嬉しい。
50	岩佐さんの「やりたい介護をやっている」という言葉に、感動した。国などの行政、地域等がどう関わっていくのが、日々本当に問われていると実感した。
51	直接介護している家族の話が聞いて良かった。暗くなく明るく前向きな姿勢がすごいと思った。
52	岩佐さんの講演、実状がよく分かった。
53	なんと言っても、講演「若年性アルツハイマーの母と生きる」の岩佐まりさんのお話に感動を覚えました。地域で暮らす事は小生の経験からも大変な思いがありました。しかし、家族や身近な支援と愛情が必要と思います。単身世代が増加する中で、多様な支援が必要不可欠と思います。
54	「若年性アルツハイマーの母と生きる」医療者、介護職員の視点ではなく、介護する家族の視点、経験、生の声が聞いて大変勉強になりました。
55	若年性アルツハイマーの母と生きる
56	岩佐さんの話は、人の話ではなく、自分にも当てはまる話として大変興味を深く聞くことができた。小長谷さんの話を聞き、行政の取組が近時充実されつつあることが理解できた。
57	講演会の内容（具体的なこと）
58	岩佐まりさんのお話大変感激いたしました。愛情持って育てていただけたから介護できるのではと思います。これから先もっと大変な事もあると思いますが、頑張っしてほしいと思います。



(1) 本日のセミナーは全体として参考になりましたか。  
 →「①大変参考になった」「②一部参考になった」と答えた方は、どのプログラムの  
 こういった点が参考になりましたか。

59	岩佐先生にエールを送りたい。 行政の対応については不十分である。
60	岩佐さん、小長谷さんの内容は大変参考になった。 神山さんの内容も参考になった。
61	岩佐さんの実体験に基づく介護の話が参考になる点が多かった。群馬県の具体的な取組も大変参考になった。
62	岩佐さんの話：介護中に発生してくる色々な具体的な事例とその対処方法を聞く事が出来た事と、大変な介護を通じて、大変さだけでなく、幸せを感じる事も出来ると言うこと。家族でしかできない。家族だから出来る介護者の本当の悩み等への理解と対応。 制度に対しての説明を聞いた事。
63	岩佐さんの講演で「介護する側としては初期が一番大変」という点が参考になった。
64	岩佐まり：実際の介護の内容、注意点、問題点このような家族の話は初めてであり、ありがたい。
65	「若年性アルツハイマーの母と生きる」→実際にどのような制度、社会資源を使って、在宅介護を仕事を続けながら実践されているのか紹介された点。
66	家族の生の声を聞くことで何が大変、何が必要なのか参考になりました。若年性の把握は難しく、統計も参考になりました。
67	岩佐さんの講演は実例をもとにしてのお話だったので、大変さや素晴らしさが伝わり、感動しました。
68	講演
69	若年性認知症の介護の大変さ、初期の頃の様子などMCIの実際が分かった。
70	介護の経験した方の言葉は心に届くものがあり、今後活かせるものがあると感じた。
71	介護者から見た一般の介護の状態が見れたことが参考になった。
72	若年性アルツハイマーとはと、認知症が分かった。気になった。介護の難しさを知った。
73	制度の手続き、種類、自ら調べないと利用できない。若年性認知症疾患患者の介護
74	大変さ
75	私の思っている以上に家族は大変なんだと思います。生計をたてるのに働かなくてはいけない。助成は助成で手続きがあること、なんで役所の手続きは面倒なんですか。素人が聞いてるんだから、一つの所で全て終わらせてくれないと。でも認知症になってもステキな方がいますよね。
76	若年性認知症の方の利用出来る制度
77	若年性認知症について。使用できる制度等。
78	制度の再認識を行うことができた。
79	若年性アルツハイマーは誰にでも起こりうる可能性があるだけに、少し身近に感じた。なってから制度などを学ぶより、何かと情報収集が必要であると思う。
80	若年性認知症への現在の支援体制についてよく分かった。

(1) 本日のセミナーは全体として参考になりましたか。  
 →「①大変参考になった」「②一部参考になった」と答えた方は、どのプログラムの  
 こういった点が参考になりましたか。

81	若年性認知症の方の雇用についての支援サービスについての対応や手順を知る事ができた。具体的な相談先を知る事ができた。
82	国の利用制度がいろいろあることが分かった。
83	若年性認知症と高齢者認知症との違い・具体例・利用できる制度
84	具体的な症状や生きづらさが改めて理解できた。
85	各家族によって事情や環境が違うので、通り一辺でなく、事情に合わせたサポートができる体制が必要。(本当に使えるもの)
86	情報提供の大切さと難しさを改めて感じた。若年性認知症支援について市として考える機会となった。
87	若年性認知症の認知度を広げること(地域・役所・民間機関)の活動を施策が用意されていることが判った。
88	参考になりますが、どのように活用すれば良いのか現時点では勉強不足のため、理解できておりません。
89	若年性認知症の介護者、本人さんの状況は数少なく、高齢者福祉部内での関わりが少ないため、現状や生の声を聴くことができ大変参考になりました。改めて若い年齢の方も含めた、認知症についての地域の普及啓発が必要であると感じました。また行政の各部門担当者全員が「地域ケア」の担い手であることを自覚する必要もあり内部での意識向上も取り組みたい。
90	認知症の初期の取組に力を入れたいと思った。
91	認知症のセミナーはありますが、若年性認知症というのは初めて参加しましたので、現状や制度について理解することができて良かったです。
92	資料：国の方向性、具体的な利用可能なサービス
93	日常にどのようなことが起こるのかがわかった。対応に苦慮した困難事例の方が知りたかった。
94	若年性認知症介護者の思い、介護の実際。若年性認知症の現状(データ)群馬県の取組から、専門職としての役割、そしてその教育について考えられた。
95	実際の認知症を持つ、医療や介護に詳しくない人がどこで困り、不安になったのかがよく分かった。また、介護サービスについても、一般の人はほとんど知らないことが多いため、説明も、丁寧に行う必要があると感じました。
96	身近なお話ととらえることができ、自分の行動を振り返り、今後どうすべきかを考えさせられました。
97	全て
98	事例発表が良かった。
99	パネルディスカッション。家族、企業等の理解が大切と感ずることができた。
100	講演：現実としての介護(認知症)についての考え方と介護サービスについて セミナー：認知症をとりまく環境
101	認知症の発症状況や医学面及びご家族の介護と親子関係・愛(親子)を介護法がどれだけ幸せになれたか、苦労ばかりがクローズアップされるが本当に心暖まる話を聞き感銘いたしました。

(2) あなたやあなたの家族が認知症になっても住み慣れた地域で暮らしていくにはどのようなことが必要と考えますか。

1	現在の職場の理解。日常で行く店や、施設の人にカミングアウトしても、迷惑がらずにやさしく手伝いしてくれる人が増える事。
2	一般市民の方の理解・ケアマネージャーの質の向上・医師を始め関係者の認知症知識の向上、対応力向上。
3	地域の関わり、制度の活用、病気の理解など。
4	認知症についての周囲の理解。
5	周囲（地域）の理解、協力、支援、介護者の休息の場。
6	利用出来る制度、サービスを知っていること。 地域の人の理解を得ること。 →職域を越えた連携をはかり、住民へ普及啓発すること
7	社会（地域）の理解と支援
8	より深く理解をし、介護する為には、時間的な余裕と費用的な余裕がなければ認知症と向き合った生活を住み慣れた所がいいと言っても困難なのではないかと思えます。人生後半になって急に地域の方と親しくなるうとしても簡単に出来る事ではないが、受けられる支援を利用し、家族の中だけの負担にならない様にすることが必要だと思う。
9	認知症の理解・周知 支援制度の充実・周知
10	認知症についての理解・家族の生活の充実・近所づきあい
11	周囲の理解、サポート、資源の活用
12	地域のつながりと理解
13	近隣・地域住民の理解→認知症が特別な病気、困った行動をするわけではなく、誰でもなりうる。医療機関は、認知症認定看護師や、書類手続きができる事務職などの資格をもった人を配置する。行政は縦割で融通がきかない。臨機応変な対応が必要。
14	地域（仲間）の理解を深めていく。
15	本人や介護者が孤立しない様、地域の理解や受け入れ、インフォーマルサービスの利用などが、上手く機能できることが必要。又、本人や介護者も抱え込まず孤立しない様な声かけがあれば在宅で生活できる期間が長くなるのではないかと思う。
16	周囲の理解と公的支援
17	地域の方の理解と協力、医療・保健・福祉の制度サービスの充実、経済的サポート
18	地域の近くに相談しに行ける場所がある。理解者を増やす。
19	地域病院等施設での情報提供が少なからず、発症段階で行われること、また、地域住民の理解が必要と考えます。
20	身近な人の認知症の理解、対応関わり方について学習する事、家族以外の見守り、援助、周知
21	周りの理解が必要。特に家族だけでの解決ができないのが現状。
22	周りの理解。家族の熱意。金銭的。
23	認知症に対する理解を深めること。（国民全体が） そのため、学校の保健体育などで教えたらいいと思います。

(2) あなたやあなたの家族が認知症になっても住み慣れた地域で暮らしていくにはどのようなことが必要と考えますか。

24	家族と周りの理解。充実した社会資源。
25	地域住民の理解のための情報共有、隠しておきたい事（家族が認知症等）とオープン・カミングアウトして、協力し合うシステム
26	まずは認知症についての基本的な（正しい）理解が不可欠です。そのうえで変に認知症（や認知症の患者さんを抱えていること）を、隠さず周りに助けを求めることが必要と考えます。（意外に周りは知らない事が多く、助けを求めると手助けしてくれようとするものです。） これからはインターネットを主とした情報が入手しやすくなっていくのが心強いですね。分かりやすいシンプルな言葉でしっかり情報提供することを心がけてもらいたいです。行政の説明はかなり難しく書き込んでありますので、改善が大切だと思います。
27	家族や地域の理解が必要
28	理解を深め「偏見」をへらすこと。少し大らかにいい加減な地域であれば良い。
29	認知症の理解（出来れば認知症サポーターになる事） 制度の利用（公報・情報を発信） 多様な支援者との交流 専門職の認知症の深い理解と支援 企業・職場でのメンタル環境の整備（メンタルヘルスの充実） 就労の促進（特に若年性認知症） 認知症の人との交流（大らかに、気張らず、愛を持って！）
30	まわりの理解と協力及び近場の施設
31	地域住民の理解、家族の認知症に対する理解も必要。（岩佐さんのお父様の話を書いて・・・）
32	やはりご近所の理解が必要だと思います。ご本人も恥ずかしながら症状を話した方が良いと思います。
33	家族、地域の住民の方々の支援（地域の人々とのふれあい） 周りの理解 認知症でも農作業に従事し、病状の進行を防ぐ 音楽（音楽療法）の利用、アイロボットの利用 行政の経済的支援（家族の介護が仕事になるように）
34	お互い様の心で、助けあい、支えあい、見守りあえる地域をつくること。
35	地域、周囲の人の理解と支え。
36	地域での支えあい。
37	あたたかい心で見守る。近所づきあい等身近な点を考えていきたい。
38	住民の理解。
39	近隣の理解、使いやすい制度。
40	隣近所で声をかけられるような情報、環境づくりをしたらいいと思う。
41	地域づくりが大切であると考えています。専門職、行政、市民等と一緒に取り組んでいく必要があり、行政として地域性を生かしながら、どのように取り組むべきか考えていきたいと改めて感じました。
42	地域全体のサポートが重要なことを再認識した。



(2) あなたやあなたの家族が認知症になっても住み慣れた地域で暮らしていくにはどのようなことが必要と考えますか。

43	普段からの身内や地域との繋がり、今の私には地域との繋がりが全くなく、不安。認知症の啓発活動も必要。認知症サポーター開催していても、サポーターとして、受講しているのではなく、「で、自分がこんな病気にならないためには一体どうすれば良いのか」のために聞きに来ている人が多い。
44	地域の差があるので、ある程度の水準を保ち、どこ地域でも住みやすくなるように国の施策を期待する。
45	地域や関係機関からの支援、経済的支援。私が当事者になったら家族に迷惑をかけたくない。私が介護者になったら仕事を続けながらどこまで介護できるか非常に不安、相談できる人はいるか、助けてくれる人はいるか。
46	ご本人、家族が余裕が持てるようなサポート（制度・サービス・助け合いの精神）体制。
47	在宅と地域医療、介護サポート等包括的にサポートできる体制を作って欲しい。地域のコミュニティも含めて広げて欲しい。
48	支援制度を理解してもらえるような行政としての取組が大切だと思った。
49	支える家族がつぶれない様、公的な支援が重要 施設・費用
50	家族の事業に合わせて利用できる事業所があること。人的・経済的支援があること。
51	家族のサポートが必要となります。そのためにも会社の支援（時短勤務など）や地域の支援が必須だと思います。
52	近所付き合いがあるのが一番良い。徘徊対策など、ITを使う方法もあるが、完全ではない。
53	家族、親戚の協力。 Orange-careの充実。自治会回覧板にetc。宣伝した方が知名度高まるのでは？
54	周りの助けが必要
55	地域の助け合い
56	周囲の人（友人・知人～隣人・近所）との関係をつないでおく。自分自身が人との関係を良くすることですごしやすい環境をつくる。困った時に相談できる窓口を分かりやすくしておく（行政）
57	夜間でも相談できる窓口
58	相談窓口の整備、周囲の理解。
59	相談できる場所、相談できる人、充実した制度と社会資源でしょうか。相談できる場所に関する情報の周囲は必要だと思いますが、専門職によるアウトリーチを増やさなければ、支援につながらないのも現実。
60	重層的なサービスと多様な雇用の形、フレックス勤務など仕事を辞めなくても介護ができること。
61	就労先が難しくなく、確保できるような仕組み。
62	地域包括支援センター、労働局のワンストップサービスをどう構築するか。本日の話では、やはりワンストップサービスは難しいのかと感じた。
63	地域包括ケアシステムの充実。
64	多職種連携

(2) あなたやあなたの家族が認知症になっても住み慣れた地域で暮らしていくにはどのようなことが必要と考えますか。

65	住み慣れた地域で暮らしていけるよう行政、地域とか連携を図り生活が営める様な取組が必要。自分自身の身内に対象となる人がいない為、なかなか考えることがないが地域で医療、福祉と行政との連携が重要であると考え。
66	医療と介護施設と地域の人々で住み慣れた地域で暮らしていく為に連携が必要。
67	地域包括ケアに力を入れていただきたい。制度をよく理解して上手に利用出来ればと思います。
68	社会の偏見をなくすこと。認知症の人自身に偏見をもつ自分を恥じる、隠すこと、自身を失ってしまうこと。
69	家族が認知症であることを隠さないで暮らせること。
70	思いやり
71	互助・認知症の周知・子供時代からの教育
72	周りの人々に恥ずかしがらずに病気を伝えてサポートしてもらえる雰囲気づくりが必要だと思います。
73	まず、住み慣れた地域で暮らしたいかを問い、病気や制度について周知すること。具体的には近くの市役所が関連企業が連携し、今回のようなセミナー等を実施し、一般の方々に周知する。そして知識を得た一般の方々がさらに周りに伝達することで知識の共有を行うことが必要。
74	認知症に対する偏見を減らしていくこと。→「認知症」という言葉を避けることなく、当たり前に行うことができること。 専門職による心のケアを含めた診療・介護の提供 認知症について誰もが一定の知識をもつこと。
75	地域の社会資源が分かる認知症ケアパスなどがあるとよい。
76	これから勉強していきます。
77	家族のレスパイトケアや本人が主体的に参加できる場所である通所介護などは（認知も含め）症状により対応困難と言われ行き場を失ってしまったことがある。認知デイでも対応力がなく残念である。認知症の人を受け入れるだけの力量を含め居場所を作って欲しい。
78	若年性認知症の方の利用出来るデイサービスが少ない。→簡単な事でも仕事として成り立つ事業所（庭掃除や以前の仕事を活かした事）
79	若年性認知症の方が満足できる「場」を作ること。 支援する側、支援される側の垣根をこえることができれば。
80	一般市民の立場からは、相談窓口をできるだけ一本化、簡素化して必要な情報にアクセスしやすいシステムづくり。
81	地域の窓口の存在、アクセス方法、内容の認知。 コンサルタント（相談できる人）の能力、存在の認知と考えます。 ・仕事をしていると地域との具体的な接触が希薄です。 ・親と離れていると親の地域との接点がありません。
82	行政の分かりやすい説明と施設入所にもタッチして欲しい所なのに、たらい回しなく平等に介護をしてくれる制度を作ってくれれば、家族は介護でつづれなくてすむ。
83	重度のアルツハイマーに進んでしまうと、家族負担はとて大きくなってしまいますので、その時は施設介護が良いと思う。軽度の時は、介護サービスで過ごす。

(2) あなたやあなたの家族が認知症になっても住み慣れた地域で暮らしていくにはどのようなことが必要と考えますか。

84	地域の見守りです。自分が稼げる時は前もって自治会長さんにお話しをしたり、近所の方に家族を守るよう声かけをさせてもらいたいです。そうしたことがしやすいように普段から地域の集まりに参加したいです。
85	一人ではできない。正しい知識、情報。相談先のクオリティの重要性が大切だと感じた。
86	薬局、薬剤師が積極的に関われる事を考え、実行していくことが必要だと考えます。 例) 制度情報の発信、薬物治療に対する地域生活者への啓発など画一的ではなく、それぞれで考えるべきだと思います。
87	収入の確保・時間の確保・介護離職の回避・家族が仕事中の本人の世話の確保・利用できる制度の通知(申請ベースではなく・・・)
88	地域への国からの補助(大都市人口集中なので地方への分配)
89	行政が本気になって認知症に対しての制度対策を講じるべきだと思います。その基本がないと小手先の対応となり、結果としてはだめになる。 ・行政指導による、地域の対応と取組む。→デイサービス(負担が軽いということも含め)の充実・地域ぐるみの対応。 ・行政窓口の対応時間の検討→開設時間を土日夜間など。(社会保険事務所は対応していた。)
90	まずは認知症になったとしても軽度で食い止める方策 それに向けての本人の努力 家族のサポート 相談窓口の充実
91	情報(制度や支援)の周知。 ホームページ、新聞ちらしをみれない方へのきめこまかな対応 相談窓口の24時間対応、365日対応
92	地域、職場、病院、施設、役所様々な関係機関の協力と連携、地域包括支援センターのリーダーシップとレベルアップが必要
93	認知症の方への対応力を地域としてどの様に高めていくのと言う事を地域みんなで考え、行動に移して地域力を高めていく事が重要だと思います。
94	孤独にならないこと。たった1時間。されど1時間。でも見てもらえない時間もあるのは確かです。
95	現在は施設に預けてしまわれてしまう家族が多いかと思いますが、それも仕方ないのかなとも思います。まず認知症にならないよう出来るだけ働いて、体と頭を使って自分のことが自分で出来る年寄りになってもらいたいです。 クスリを飲み過ぎだと思います。
96	地域包括ケアというのだから、子育て支援課等も含める必要がある。オレンジカフェでは、認知症の方のみという印象で認知症の方々への専門的支店の場という感じがする。実際、NPOやボランティアの運営は当初、人が来ない。そこでケアマネージャーも一緒に、子育てママも乳児と一緒に「街作り」の課題が見えてくる。それを行政が支援する。専門職(医師や介護職など)が支えていくそのような地域社会で未来を語りあえたらいいなあと思う。

(3) 若年性認知症支援で重要なことは何だと思えますか。

(①企業としての取組 ②職場の同僚の理解 ③家庭における理解 ④国の制度の充実)  
→具体的にはどのようなことですか。

1	①個別性に応じた人事異動 ②認知症に関する理解、業務分担、人員配置の工夫 ③認知症について学ぶ場 ④企業や介護者への支援制度
2	①継続雇用、本人の意欲を大切に。 ②周りのフォローは必要。大切な仲間としての認識をもつ。 ③たとえ認知症になっても大切な家族、今を否定せず、これまでの本人との関係を大切に。本人が休める場にする ④必要に応じた社会保障
3	①②管理職、同僚が若年性認知症について知ること。雇用主として、対応をあらかじめ決めておく。 ③全ての住民が認知症を知るための啓発 ④家族の理解を深めるための個別支援を行う。(病院・行政)
4	①施設スタッフとして、対応に対する技術を学ぶこと。(地域におけるコミュニティーをつくる。カフェなど) ②病気に対する理解、生活があることも理解し、可能な限り支援。 ③家族で発症した時の対応(どこに相談するか、窓口)などを知ること。 ④病気になった人への支援、周囲(家族)への支援を体制として考える。
5	①働ける場所 ②病気の理解やさしく接する ③やはり一番大切なことは愛情対応の仕方 ④認知症予防病気の原因の究明
6	①職場で話しても上司、同僚が仕事を継続できるように、理解を深めて行く職場づくりに努めて欲しい。 ②同僚、仲間から偏見をもたないようにするための職場教育が必要。 ③家族が本人を疎外しないような教育、講習
7	すべて重要であると思えます。「企業としての取組」「職場の同僚の理解」「家庭における理解」に関しては、認知症の正しい理解と対応
8	①～④の全てにおいて「理解」の深度。
9	全部必要と思えます。まずは雇用の継続、国の支援が大切。
10	全て
11	もちろん、全部重要でしょう。ネットワークで進めなければならないと思えます。具体的には難しいですが、まず「認知症が脳の病気である」(若年性に限りませんが)ことの理解を求めていくことは大切だと思います。行政機関に「認知症課」高齢者の若年性も(まるごと引き受ける)を作ってはいかがでしょうか。
12	若年性認知症の人を雇用している企業への支援強化、そしてその周知徹底。 本人が心地よくすごせる場、あるいはやりがいを得られる活動や仕事ができる場の創出。
13	若年性の方の就労、生活支援、そのための理解。
14	まずは家族が若年性認知症という病気を理解すること(初期～末期まで)
15	周りの人全てが理解して頂けるのがベストですが、当面は制度を充実していただきたい。
16	理解と周知



(3) 若年性認知症支援で重要なことは何だと思えますか。  
 (①企業としての取組 ②職場の同僚の理解 ③家庭における理解 ④国の制度の充実)  
 →具体的にはどのようなことですか。

17	まだ理解度、認知度が低いので、正しい情報を一人でも多くの人々に理解してもらおう。
18	認知症に対する理解。理解があれば、会社でも地域でもどこでも自分らしく生活していけると思う。
19	まず病気に対する理解、対応介護についても知ること
20	若年性認知症について正しく診断され①～④を正しく理解され、制策、制度が適切に利用できるような取組がされる必要がある。若年性認知症を早期発見できるシステム作り。
21	②時を選ばず突発的なトラブルが起こることの理解 ③怒らない
22	患者の周囲、知人、家族等がまずどのような病気に対応をどうすれば良いのか？理解する事。制度の充実というよりは、制度の利用のしやすさ、その情報に対するアクセスのしやすさ
23	世間の理解。国を始めとする公的な制度と受け入れ体制。
24	雇い主の理解があっても同僚など現場で一緒に働く仲間の理解がないと仕事の継続は難しい。
25	自分の家族が若年性認知症と考えると、自分はフルタイムなので、家からいなくなってしまう等の問題が起きたら早退せざるを得ないなと思いました。今の職場は理解がとてもあるので、そういった環境が広がるといいなと思いました。
26	職場の理解が大企業でも持たれていない。
27	職を持ち続けることが本人の生きがいにもなる
28	給与を下げないような補助
29	ジョブコーチの充実と、理解できる職場環境 家族にも病気の理解（一番難しい部分でもあると感じている）をしてもらい、できる部分でのサポートしてもらおう。 介護保険、障害福祉サービスを上手く併用していくことができるシステムを充実する必要があるのではないか。
30	仕事を続けていける様にしていきたいです。
31	現状の生活を維持する為の経済的支援。本人の居場所、仕事の確保。
32	離職の回避（家族の介護離職の回避も含む）国によるサポート制度
33	まだ家族の大黒柱であり、経済的に困るということが解決しなければならない。また男性が多い事から暴力に対応することが大変ということもある。
34	一家の大黒柱が職を失い、家族の収入減となる場合の支援。子供が成人するまで等期間を設けて支援するとか、代わりに妻が就労できやすいように支援するとか、あくまで自力をうながすことを目的としてお金もらって助かるとかだけでない制度。
35	④国の制度の充実は当然として、最も重要なことは会社の取組。
36	使える制度の分かりやすさ。経済的支援。
37	制度をもっと分かりやすく、申請しやすくして欲しい。

(3) 若年性認知症支援で重要なことは何だと思えますか。  
 (①企業としての取組 ②職場の同僚の理解 ③家庭における理解 ④国の制度の充実)  
 →具体的にはどのようなことですか。

38	国の制度を広く知らせることだと思えます。病院のドクター、相談員の教育が大事だなと感じました。その人がその人らしい生活を出来るようにするにはどうしたらいいかという勉強会が必要だと思えます。サポーター作りと教育。
39	国は、若年性認知症の自治体レベルの担当部署を明確にする。障害、介護、保健、労働の部署が重なるのはいいが、どこもメインになるうとはしない。 企業に対する助成を充実すべき。赤字になるのであれば企業は手を出さない。特に中小企業。 小中学校からの生涯教育。 企業就労者への体験教育。
40	社会全体の問題としてPRし活動していく事が必要であるとする。
41	同じ人間同士という意識を持つこと。「認知症予防のセミナー」が流行するのは認知症になりたくない人がいるから(多いから) 認知症は治せない病気→周囲の人の無力感→病気の人が悪いことをする。自分のせいではないと思いたい。→対応方法を教えてくれれば安心して共存、暮らせるのではないか。啓蒙活動必要。
42	若年性の方が利用できる介護サービスの充実。1号の方と全て一緒に行くということについて、受け入れがたいと思われるケースが多いため。
43	若者は働きざかりの年齢のため、子供がいれば年齢も低い。仕事を失うと全てが悪い方向に向いてしまうと思う。できる限り、仕事を辞めないで本人の出来る事をみつけ、対応して頂けることを願っている。
44	本人のプライドを傷つけないような対応を行う。
45	社会資源の活用
46	病気への理解と目から分かりやすい説明を受けられる場所と電話にて相談を受ける事ができるネットワークの構築が急務
47	介護保険と障害制度の違いがあり、とても複雑だと思う。
48	認知症の理解を深める研修を専門職が家族向けに実施(国の補助金整備)
49	家族が現実から逃げてしまう事も多く見られる為、まずは家族が支えていく事が出来るよう、周囲が家族が安心して介護していこうと思えるようサポートする事が必要だと思う。
50	情報提供と、相談対応、今回のような啓発セミナーの継続開催をお願いします。
51	生活を守るために、明確な役割を検討すべきだと思えます。
52	自ら国の制度を調べて、尋ねないと国や医療機関の方々からは十分な説明対応がなされないのが現状だと思えます。
53	国の制度の充実 申請主義の改善 専門職の情報提供の義務化 公共団体では公報-制度の徹底 対象となる人々へのアウトリーチ
54	具体的な制度の周知
55	国が全面に出て、対応してくれること
56	国が指導して企業が認知症社員に対応できるようリードしていくべきだと思う。

(3) 若年性認知症支援で重要なことは何だと思えますか。  
(①企業としての取組 ②職場の同僚の理解 ③家庭における理解 ④国の制度の充実)  
→具体的にはどのようなことですか。

57	全ての支援が必要。その人の状態や生活は個別ですが、どんな形であれ、全ての理解や取組が必要である。
58	税制、手当など直接的な金銭支援。専門的な医療機関の案内。情報提供。
59	「②職場の同僚の理解」は大切。しかし日頃から自分自身のふるまいも大事だと、病気になってから理解を求めても現実的にはきびしい。
60	一番大変なのは本人であるということを考え、大変な人をサポートするという心と自信に余裕を持つこと。

#### (4) 今後、地域包括ケアを推進する上で厚生局や自治体に期待することは何ですか。

##### 【厚生局】

- |   |  |
|---|--|
| 1 | 今日のような講演をしていただき、自治体も企業も若年性認知症を理解して対策を進めていただきたいと思います。 |
| 2 | ユニットケア・個別ケアの質の向上の研修を受講する為の補助金の整備                     |
| 3 | 安心して暮らしていける体制  |
| 4 | 国の利用できる制度をもっと身近に分かりやすくしてほしい。                         |

##### 【厚生局・都県・市町村・行政・企業】

- |    |  |
|----|--|
| 5  | 産・官・学・民がそれぞれの立場を理解し、課題対応できる機会の創出ができると良いと思います。  |
| 6  | 全てにおいて、それぞれの立場の中で認知症の人に対しての理解、受け入れが必要。今後認知症が増加することが予想される中、積極的な取組が要求される。  |
| 7  | 厚生局・都県・市町村：認知症に対する周囲の理解への周知<br>行政：介護にあたる家族への経済支援。介護が仕事になるように。<br>被介護者へのGPS常備   |
| 8  | 一般企業に勤める世代には、なかなか実感もわからず、広まるのは難しいと思う。やはり介護職に就く人口を増やす政策が必要。介護職を増やすには処遇改善等・お金だけではなく、介護職がプライドをもてる社会にすることが必要。以前は看護師のように。 |
| 9  | 情報提供（情報に対するアクセスのしやすさ）  |
| 10 | HPはすっきり分かりやすくを心がけてほしい。（中学校1年生が読んで、理解出来るイメージ）   |
| 11 | 市役所等の窓口は夜間・土日でも利用できるようにしてほしい。国民のサービス提供の観点が充分ではありません。手続きが不便です。  |
| 12 | 地域差のない医療の充実<br>認知症を早期発見できる医療機関の確保<br>行政だけで認知症施策を推進するのは限界がある。人的にも予算的にも。企業と地域の力を活かすことが必要でそうなるようしかけてくことが大切では。           |
| 13 | 厚生局：具体的に「やっていかなければいけないこと」について、話してほしい。<br>企業：認知症サポーターの受講  |

##### 【市町村】

- |    |   |
|----|---|
| 14 | 地域の住民が関わっていけるような環境づくり。自治会館等を利用してカフェをする（歩いていける場所）<br>協力できる元気な老人をつのり、協力してもらえる体制づくり。 |
| 15 | 本気で我が事として取り組んで欲しい。  |
| 16 | 24時間体制のフォロー<br>情勢の集中（縦割でないワンストップサービス）   |
| 17 | できるだけ手短かに問題が解決する相談窓口  |
| 18 | 相談窓口の強化   |



(4) 今後、地域包括ケアを推進する上で厚生局や自治体に期待することは何ですか。

19 身近な場所での介護体制が大切。今後充実させていって欲しい。

20 もっと認知症についての勉強をしていただけたらと思います。数年で異動してしまうので、真剣に勉強しようという姿勢に欠ける方が見うけられ、残念です。一番身近な窓口ですよね。頑張ってください。

【市町村・企業】

21 市町村：何か不安、困った時の支援（本人、家族へ）認知症に関する普及啓発。必要な情報をPRする。  
企業：働く場を確保。後援。

22 きめの細かいネットワーク作り

23 認知症支援者を孤立化させないよう、周りを良い意味で巻き込むことができるよう「市役所だより」等のチラシを配布する。チラシを見た人が認知症支援者の支援ができるようにする。支援してくれた人にはなんかしらの待遇が受けられるようにすることで意欲的に取り組んでもらえる様にする。

【都県】

24 補助金等の充実

【都県・市町村】

25 働ける場、集える場をつくる。

【その他】

26 まずは自分の地域の現状を知ること。

27 一人の小さな声を拾い、その声に沿った取組をしていって欲しい。

28 病気をきちんと正しく、理解すること。

29 全ての立場の人が、互いに協力して本人を支援していくという自覚を持つこと、そのためには行政がコーディネーター力を持つこと。

30 認知症を完全に予防できる薬などの開発ができればなにもなくていい。一番安上がり。

31 病気の早期検出手順の確立

32 これから勉強していきます。企業及び自治体で行っている健康診断で認知症検診を追加して、早期発見・診断結果の本人の理解等で前倒しで対策ができるのではないのでしょうか。

33 認知症は今や誰でもなる病気と捉え、普及啓発を積極的にしてほしい。（人材確保も含め）

34 家族に対するサポート（休暇・金銭面・働き方）

35 支援制度、就労は困難であると思うので（重症化した場合）経済的支援は特に重要になると思う。

36 働きざかりの方が多くいる企業が認知症理解を深めることで、地域（自治体）にもつながっていくと思う。

37 認知症対策を進めていくのであれば、認知症の人、または家族の声に耳を傾けて欲しい。一人一人の声を大切にしていってほしいと思う。

(4) 今後、地域包括ケアを推進する上で厚生局や自治体に期待することは何ですか。

38	地域の状況や現場の意見をもっと聞き取り、反映して頂きたい。 介護認定基準の他、移動支援などもう少し柔軟な対応を望みたい。 認知症カフェなど、民間企業にも参加してもらい多世代で交流できる場（障害児者、子供、高齢者、認知症の本人・家族）が増えるといいと思う。
39	①経済的支援 ②精神的な面でのサポート（本人、家族とも） 制度、施策が現場で生かされるようにする。 ※コーディネーターに期待があると思うが包括の現場では人手不足で丁寧に説明する時間が足りないことを国に理解して欲しい。 国や自治体には100人いれば100通りの考え方がありその対応に苦慮している包括があること理解して欲しい。
40	分かりやすい手続き、安心して利用できる。
41	支援内容を選択できること、認知症になれば皆同じということもあるでしょうが、個別の部分も多いと考えられます。「あんなケアは嫌」という暗いイメージが80才以上の方々にもあることがあります。
42	市町村にある多職種と出会う機会の創出。話を聴講するより参加型へ。
43	行政はお役所仕事で時間的・制約が多い。必要な時に利用できない為、改善が必要ではないかと考える。若年性認知症は高齢者認知症とはまた問題は違い、政策等の支援についてのピーアールがもっと必要であると考えます。
44	認知症の考え方を改めて考えて欲しいあまりにも病の事が軽く考えていらっしやる。 まずはそこから始め認知症の事故を防ぐ為に行政からのアプローチとつながりを強化し不明者の数を減らす。
45	窓口の設置。分かりやすいもの。 人と人、場と場（団体）をつなぐ組織作りの援助
46	誤った固定観念、偏見と差別を持たない。
47	介護を含めた認知の支援、サポートがどのようなものがあって使えるのか？を縦割ではないその人に則したアドバイスが出来る人をおいて欲しい。
48	相談窓口、申請等の窓口を週末オープンしてほしい。また、遅い時間帯にもあけてほしい。
49	地域包括支援センターを公正中立な機関にして下さい。民間委託をやめてください。
50	理解はもちろんのこと。専門職の有効活用し、発症者、ジョブチームとして生かしてほしい。手伝えることがあれば手伝いたいし、もしかして自身が発症しても安心できるようにしてほしい。
51	自治体にもよるかもしれませんが、役所の窓口の認識が甘いように思えます。（専門性が不足）事業所の一覧の案内だけでは、不安は解消されません。
52	医療・介護・雇用等一括して対応できる窓口の設置。就労形態の多様化。
53	制度のはざまにいる方々を見殺しにしない様にして下さい。
54	企業→市町村→都県→厚生局
55	分かりやすい文章をつくってほしい。

(4) 今後、地域包括ケアを推進する上で厚生局や自治体に期待することは何ですか。

56	病院での相談窓口の設置。 個々の医師の若年性認知症支援に関する知識の習得と患者への情報提供 役所以外の所でのこうした問題の入口を設ける必要があるのではないか。役所がやることへの無関心 や反発が周知の障害となっている気がする。
57	orange house etcの充実 公共交通機関でのassist 充実
58	予防が一番大切と思うのですが、どうしたらいいのでしょうか。